



最終処分場でメタンの数値を図る。ごみがすべて
むき出しになっているため、周囲への汚染も深刻だ



ごみ山で出会った子どもたち。みんな無邪気に走り
回っていたが「学校には行っているのかな...」もっ
と話してみたかったです



国立公園の清掃活動を終えた両校の生徒。「みんなでやると
あっという間でした!」。互いのごみ問題について話しながらの
作業は有意義だったようだ

埼玉県
from **SAITAMA**

インドネシアの高校生と ごみ問題を解決!

2つの国の高校生が協力し合っごみ問題に立ち向かう一。
埼玉県の筑波大学附属坂戸高等学校の生徒が立ち上がり、
インドネシアのコルニタ高校との協働プロジェクトが始まった。

初めての途上国へ

日本からはるか6000キロ。飛行機で約7時間、インドネシアの首都ジャカルタに到着すると、市街地には高層ビルが立ち並び、道路には車やバイクがひしめき合っていた。「なんだかイメージと違うなあ。そんなことを考えながら幹線道路に入ると、バスの車窓から、あちこちにごみが散ら



ばっているのが見えた。ペットボトル、ビニール袋、新聞紙、紙パック...。何もかもが、日本では見たことのない光景だ。

3月中旬、筑波大学附属坂戸高等学校の2年生5人は、公益財団法人トヨタ財団の「アジア隣人プログラム」※1の活動の一環で、生まれて初めてインドネシアを8日間訪れた。

坂戸高校は全国でもいち早く、

ゴール農科大学附属コルニタ高校とともにごみ問題に取り組んでいる。

「インドネシアと日本、共通の課題を考えてたどり着いたのが『ごみ』でした」と話すのは、この活動の立役者となった農業科の建元喜寿先生。流ちょうなインドネシア語を話す彼は、インドネシアの青年海外協力隊OB。「昔から国際協力に興味はあったのですが、現職教員特別参加制度があると知って。教師生活10年という区切りを迎え、挑戦してみようと思ったんです」。2008年から2年間、地方の国立公園に派遣され、地域住民や公園の来訪者への環境教育、エコツアーリズムのプロモーション活動などに携わった。

そして帰国後、協力隊の経験をいかに生徒たちに伝えるべきか模索した時。「二回きりの交流ではなく、生徒が自ら考え、継続

共に学んで つながるさずな

「スラマツトシアン!」

「こんにちは!」
インドネシア語と日本語であ
いさつを交わす両校の生徒たち。

テレビ電話で顔を合わせてはいたものの、初対面はお互いちょっと恥ずかしそうだ。

プロジェクトのキックオフとなる今回の滞在。「インドネシアの環境問題を肌で感じてほしいか」と建元先生。両校の生徒が3R※2の取り組みなどを発表し合った後、国立公園の清掃活動を実施。途中、ヒルにかまれるなど途上国ならではのハプニングもあったが、次第に打ち解けていった。

その後、皆で集めたごみを持って最終処分場へ。そこで出会ったのが、ごみ山で働く子どもたちだった。「悲しそうな顔をしているのかなと思っていたら、とても素敵な笑顔をしていました。苦しい生活のはずなのに、なんでだろう...。もっと深く知りたいです」と鈴木球予さん。現地での体験を通じて、生徒たちはそれぞれの「新

ごみを探して森の中に入っていくインドネシアと日本の高校生。共に汗を流すことで連帯感が生まれる



たなテーマを発見しようだ。

今後は月2回、毎回テーマを設けてテレビ会議を通じて議論。さらに、両校の生徒が行き来し、最終的には、日本語、英語、インドネシア語でごみ問題の解決策を一冊の本にまとめる予定だ。「海外って遠い存在だと思っていたけれど、一気に身近に感じました。もっといういろいろなことが話せるように英語も頑張りたい」と中村勇太くんは意欲的だ。

実は彼らが今回旅立ったのは、3月11日の東日本大震災の翌日。現地では、町を歩く人々に「家族は大丈夫か?」など温かい言葉を掛けてもらった。「インドネシアでも過去に何度も大きな地震が起こっています。その経験を共有し、将来、何かあればいつでもお互い助け合うことのできる友人をつくってほしい」と建元先生。それが「グローバル人材」としての第一歩にもなるはず。今年中には、インドネシアの環境NPOパリ・バイオダイバーシタスが橋渡しとなって、新たにバリ島の高校とアグロフォレストリーのプロジェクトを立ち上げる。

「私たちが立ち上げること、まだまだたくさんあるはず。頑張ります!」と、岡安悠希さんと岩本千夏さん。7月にはインドネシアの高校生が来日予定。彼らの活動はまだ、始まったばかりだ。



「一つ一つの心掛けが大切」と話し合い、みんなで食べたランチのごみも分別

※1 「よりよいアジアの未来を目指して」をテーマに、アジアの「隣人」たちと顔の見える関係の中で、共有する課題を解決するための取り組みを助成するプログラム。

※2 ごみを「Reduce(減らす)」、「Reuse(再使用)」、「Recycle(再資源化)」の略。資源の再利用のキーワードとして使用される。